



まちづくりの輪

2021年度 第4号 (隔月発行)

2022年 3月 12日
奇数月理事会日発行
小浜小学校区
まちづくり協議会
広報部
TEL・FAX 86-2351

お詫び：広報部発行の「まちづくりの輪」第4号は、まん延防止等重点措置により、ページ数を減らして発行させていただきました。

お知らせ：まち協ブログ公開中。小浜小学校区まちづくり協議会で検索、閲覧できます。ぜひご覧ください。

まん延防止等重点措置延長に伴う 小浜まち協活動等の自粛について

兵庫県では、年明け以降に新型コロナウイルス感染症の感染者が急激に増え、医療のひっ迫状況が継続、兵庫県対象のまん延防止等重点措置は、3月21日まで延長されました。

それに伴い、1月のふれあいバスツアーおよび2月・3月の理事会は中止となりました。小浜まち協各部各クラブの活動については自粛している場合もありますのでまち協だより・ポスターなどでご確認ください。感染拡大防止のためにはやむを得ない処置とご理解の程よろしくお願いいたします。

まちづくり計画の見直しについてのご報告

小浜まち協のまちづくり計画では6項目58の基本目標がありますが、今年度は、町田副会長を中心に、自治会長等連絡会議にて小浜小学校区の防災を中心に話し合いを重ねてきました。1月8日に下記内容で「地域ごとのまちづくり計画推進シート」を、宝塚市に提出しました。

「地域ごとのまちづくり計画推進シート」

地域ごとのまちづくり計画の該当箇所

基本目標

災害に強くみんなで助け合えるまち

具体的な取り組み

河川の清掃・管理、排水設備の充実、防災学習会の開催、校区防災訓練の実施、まち協防災部の立ち上げ・運営、自主避難等防災の仕組みづくり（備蓄、情報収集、伝達方法など）

「具体的な取り組み」について

目的・課題（どのような地域課題があるか）

小浜小校区地域には、一部で防災意識が高い地域があるものの、大半は関心がない、あるいはどうしてよいかわからないという防災無防備の地域課題がある。小浜小学校区のまちづくり計画に記載している小浜防災会議を開催し、防災の仕組みづくりを考えていくことで防災意識の向上をはかり、防災体制の強化が推進され、地域課題の向上につながると考えている。

内容（なにをするのか、いつするのか等）

従来から2か月に1度開催していた自治会長等連絡会議を、今年度より防災会議と位置づけ、防災の課題を話し合うことにした。すでに3回行われ、率直な意見がたくさん出た中から、防災の仕組みづくりとして「安否確認、情報収集・伝達方法」の必要性が確認され、そのためのステップとして各自治会エリアの住宅地図を作成することにした。次回以降その住宅地図をどのように活用していくかの話し合いの中から次の課題が見えてくると思う。

「南海トラフ地震」が発生したとき、宝塚市は住民に対し情報をどのように通知していくのか。また住民の被害状況をどのように把握していくのか。そのときに、まち協や自治会はどのような役割を荷っていくのか行政の関係課と協議したい。

「まちづくり計画」の市との対話会

まちづくり計画について、小浜小学校区まちづくり協議会と宝塚市との対話会が、2月28日月曜日10時から、中央公民館210学習室で行われました。防災を中心に話し合いました。

宝塚市からは、協働の取り組み推進担当次長 吉岡さん、総合防災係長 嘉村さん、市民協働推進課石谷さんが出席くださいました。小浜まち協からは、本部役員や自治会等から10名が出席しました。

藤本会長のあいさつに続き、出席者の紹介をしました。

進捗確認シートで、防災の各項目の進捗についての確認作業を行いました。地域の現状と取り組みについて説明をし、レジメに沿って、対話を行いました。

＜対話内容の抜粋＞

大規模災害について、地震と水害では対応が異なる。

水害は、水位と雨量で避難が必要かを判断することになる。

災害に対し、自助7共助2公助1と一般的に言われている。

災害時の市職員の参集には、時間がかかる。（道路事情、職員が被害を受けている場合もある）

災害時の被害状況の把握について、通報がベース。

小浜まち協では、災害時の連絡用のトランシーバー購入資金を宝くじ助成金に申請している。

地域ごとの防災計画を作るためには話し合う必要があり、そのプロセスも大事。計画ができた後も状況に応じてバージョンアップする必要がある。計画の中に市との連携方法も定めることができる。現在作成済みのところも、地域ごとで課題が違うので、それぞれが工夫して防災計画を作っている。計画を市が把握することで連携がとりやすくなる。小浜小学校区も作ってほしい。

防災には正解はないので、有事にスムーズに動くために訓練も必要。

防災スピーカーは停電時でも活用は可能。

小浜小学校は自主避難場所ではない、自主避難場所（宝塚小学校）までが遠い。

水害予測時には、空振りであっても避難所をあけてほしい。

指定避難所には市職員が派遣され運営する。

災害時の支援物資（水、食料など）は、避難所に届けられる。

自治会に所属していない人との連絡はどうするのか、まち協としても課題。

南海トラフ地震発生に伴う事象について、予想では宝塚市の多くは震度5強。避難所が開設するまでに5～6時間かかるので、共助が必要。物流および国などからの支援は被害のひどい地域が優先になると予想される。宝塚市の現在の備蓄は5万食しかない。行政も住人も備蓄の拡充が必要。配布は2日目以降になると思われる。水の確保について、貯水槽や浄水場を活用する予定、井戸は6か所で着手。武庫川河口にある下水処理場が津波で被害を受けるとの兵庫県の予想があり、トイレ、家庭排水が流せなくなる。

災害発生時の各家庭での備蓄や下水道が使えないことなどを広く広報する必要がある。

サービス公社から災害時の避難所での車いすなどの協力の申し出をいただいている。協力については文書化するほうが良い。教育委員会へのお願いなど協力者を作る。

災害時の連絡用として、小学校にNTTが災害用優先電話を設置してくれている。

マイカーでの避難は、渋滞や物資停滞を招くので、推奨できないが、車がないと避難できない住民もいるため、今後検討していくべき課題。

災害の保険には加入しておいた方がいい。



宝塚市長 まち協理事会に出席！

山崎晴恵宝塚市長から、各まち協の活動の場に赴きたいとの申し出があり、小浜小学校ランチルームで行われた1月9日の小浜まち協理事会にご出席くださいました。



コロナ対策の為、4月に予定しておりました「小浜宿さくらまつり」は中止になりました。